

北九州医療・介護連携プロジェクト会議 第11回合意事項等

日時	令和5年3月29日(水)19:00~20:30		
場所	北九州市役所庁舎 5階 特別会議室 A		
参加者	北九州市医師会	安藤 文彦	○
	北九州市歯科医師会	石田 力大	欠席
	小倉医師会訪問看護ステーション	泉 千秋	○
	福岡県介護老人保健施設協会北九州ブロック	大村 智士	○
	ケアマネット21	白木 裕子	○
	小倉在宅医療・介護連携支援センター	白土 健司	○
	北九州高齢者福祉事業協会	曾我 満美	欠席
	福岡県作業療法協会	玉野 和男	欠席
	福岡県介護支援専門員協会	坪根 雅子	○
	北九州市薬剤師会	平川 剛	○
	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	森川 尚子	○
	福岡県理学療法士会	山内 康太	○
	福岡県看護協会	湯元 照子	○
議題1	<p>【「とびうめ@きたきゅう」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○要介護認定・要支援認定等申請書への登録同意欄や記入例へのQRコードの追加により、介護サービス利用者への説明が容易になった。 ○要介護認定の有効期間が2、3年更新と長期になっていることを踏まえ、要介護認定者にいち早く案内するための介護施設・団体への周知や、申請窓口での登録案内状況の把握を検討する。 ○チラシの設置・配布などにより、視覚的に触れる機会を増やすことを検討する。 ○登録済みであることを把握しやすくするため、在宅関係者からも登録カードを持ち歩くよう働きかけを行う。 		
議題2	<p>【「医療・介護連携ルール」等活用状況の調査結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査期間はコロナ禍で大変な時期であったにもかかわらず、利用者入院の連絡割合が低下しなかったのは病院が努力したからではないかと推測される。 ○ケアマネジャーの現場感覚としても、入院連絡のある病院とない病院の二極化を感じる。多忙な中でルールを定着化させるためには、病院に有効性を体感してもらう必要がある。 ○病院内での対応の差は部署による周知の差と思われる。運用できている病院の成功事例などを参考にし、できていない病院への情報提供も検討してはどうか。 ○「とびうめ@きたきゅう」を奏功させるためには、登録者を増やし、ヒット率を上げるしかない。 		
議題3	<p>【「病院窓口ガイド」の改訂等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市外近隣からも好評との声を聞いている。今後、掲載対象の広域化も含め、福岡県とも調整しながら取り組んでいく。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナの5類化で各所での活動が元に戻っていくことも踏まえ、プロジェクトの普及や周知に注力していく。構成団体においても機会あるごとに啓発していく。 ○マイナンバーカードのオンライン資格確認による医療情報の連携が進められているが、介護情報や緊急連絡先の共有は「とびうめ@きたきゅう」のみの仕組みであり、当面、進めていく。 		